

達人診断 超簡単入力マニュアル 第5版 (2020.4)

© (株)えびす建築研究所

- | | | |
|------------------|-------------------------|-----------------|
| 1. 作業フォルダーの作成 | 11. 窓・ドアの入力 | 20. 耐力要素の仕様変更 |
| 2. 達人診断の起動 | 12. 壁の劣化程度の設定 | 21. 柱接合部の補強 |
| 3. 建物概要フォームへの入力 | 13. 柱の入力 | 22. 耐力要素のユーザー定義 |
| 4. 現況診断用の劣化度入力 | 14. 耐力要素を表示 | 23. 特殊な補強要素の入力 |
| 5. マニュアル等の表示 | 15. 別の建物ファイルを開く | 24. 補強要素の強調表示 |
| 6. CAD入力フォームについて | 16. 診断書の出力 | 25. 概算コストの表示 |
| 7. 外周（ライン）の入力 | 17. 補強診断用の劣化度入力 | 26. プレゼンシートの作成 |
| 8. 用途（部屋）の入力 | 18. 補強モードへの移行 | 27. 概算コスト資料の作成 |
| 9. 面材要素の入力 | 19. 補強時の耐力要素の入力：
A工法 | |
| 10. 筋かいの入力 | | |

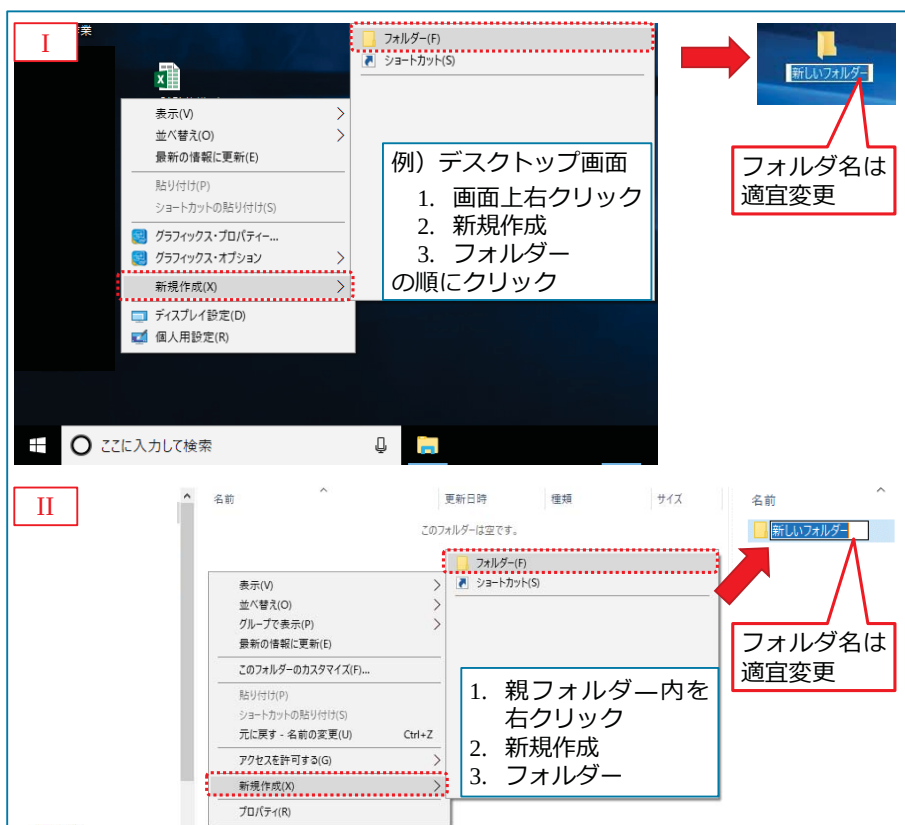
達人診断 超簡単入力マニュアル第5版



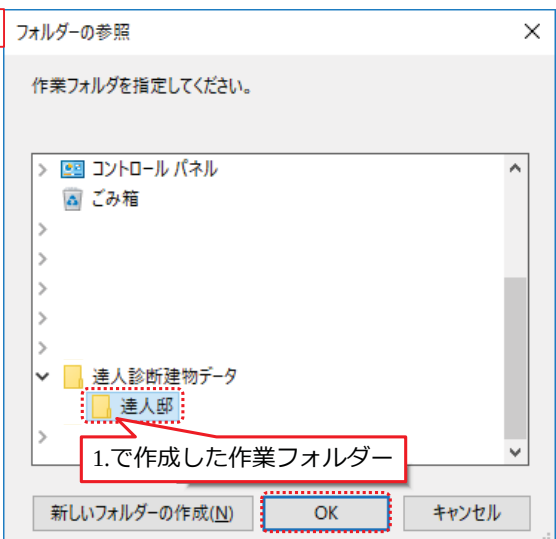
1. 作業フォルダーの作成

流れ

- I. 適当な場所（例：デスクトップ等）にフォルダー（“親フォルダー”という）を作成
- II. 親フォルダー内に各建物のデータを保存するフォルダー（“作業フォルダー”という）を作成



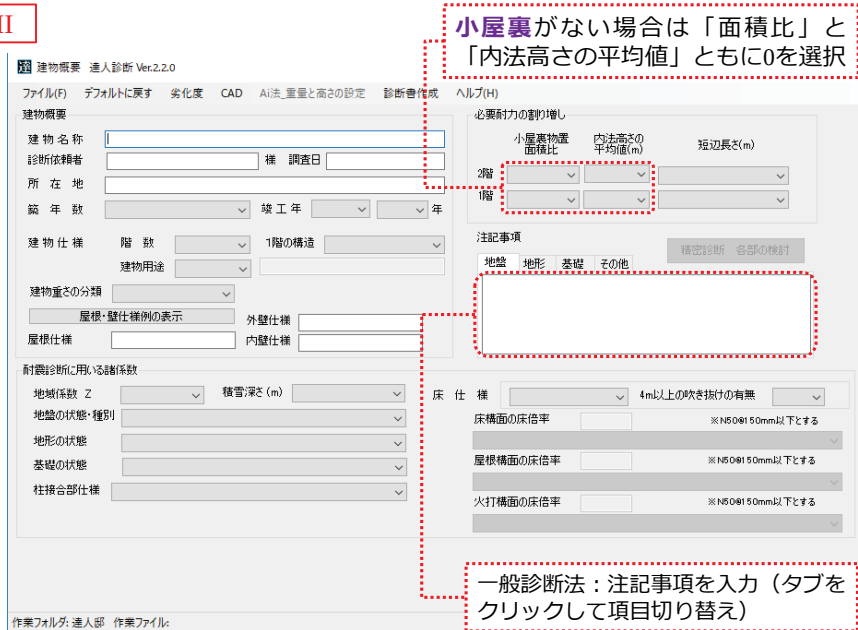
2. 達人診断の起動

流れ	
I. 達人診断のショートカットアイコンをダブルクリックして達人診断を起動 ※ 起動時、「ユーザーアカウントの制御ダイアログボックス」で「はい」を選択すると起動 II. 「フォルダーの参照ダイアログボックス」で作業フォルダーを指定し、[OK]をクリック	I  起動時、『スプラッシュウィンドウ』が現れる II 

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

3

3. 建物概要フォームへの入力

流れ	
I. 「ナビゲーションウィンドウ」で診断法を選択 II. 建物情報を入力 III. [ファイル(F)]で「名前を付けて保存」 ※ 保存したファイル及びテンプレートを開く方法：[ファイル(F)]で「開く」を選択	II  小屋裏がない場合は「面積比」と「内法高さの平均値」とともに0を選択 一般診断法：注記事項を入力（タブをクリックして項目切り替え） 小屋裏物置面積比：小屋裏や天井裏に物置・収納等（内法高さの平均値1.4m以下）がある場合、床面積に応じた必要耐力の割増を行う。 ※達人診断では「当該階の床面積に対する物置の床面積の割合」を選択

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

4

3. 建物概要フォームへの入力（用語解説）

築年数：築年数（築10年未満／以上）を選択する。築年数により一般診断の「劣化度チェックシート」の調査項目が異なる。

※ 劣化度チェックシートでは、劣化が認められる項目にチェックを入れていき、一般診断の劣化低減係数を算出する（→4節）

築年数

築年数

建物仕様

建物重量：屋根・壁の仕様に基づいて分類された3種から建物重量を選択する。

	軽い建物	重い建物	非常に重い建物
屋根	石綿スレート葺 鉄板葺	栈瓦葺	土葺瓦屋根
外壁	ラスモルタル壁	土塗壁	土塗壁
内壁	ボード壁	ボード壁	土塗壁

建物重量

建物重さの分類

屋根・壁

建物仕様

達人診断では、“建物重さの分類”という見出し名

短辺長さ：建物の各階の短辺長さを設定する。

短辺長さによる必要耐力割増係数			
	4m未満	4m以上6m未満	6m以上
簡易法	1.13	1.0	
簡易法以外	1.3	1.15	1.0

短辺長さ

短辺長さ(m)

3. 建物概要フォームへの入力（用語解説）

積雪深さ：多雪区域では積雪荷重による必要耐力の割増を行う。

※ 各県・市町村公表の「垂直積雪量」を設定する

※ 雪下ろしを行う場合は「1m」を選択可能

積雪深さ

積雪深さ (m)

達人診断では、リストから積雪深を選択

地盤の状態：当該建物が建っている地盤の状態を選択する。

地盤種別：当該建物が建っている地盤種別を選択する。

軟弱地盤割増：当該区域が**非常に悪い地盤**である場合に「1.5」を選択し、必要耐力を1.5倍する。

地盤の状態	判断基準	地盤種別
よい・普通	洪積台地または同等以上の地盤	第1種
	設計仕様書のある地盤改良	
	長期許容地耐力50kN/m ² 以上	
悪い	30mよりも浅い沖積層（軟弱層）	第2種
	埋立地および盛土地で大規模な造成工事（転圧・地盤改良）によるもの（宅地造成等規制法・同施行令に適合するもの）	
	長期許容地耐力20kN/m ² 以上50kN/m ² 未満	
非常に悪い	海・川・池・沼・水田等の埋立地および丘陵地の盛土地で小規模な造成工事によるもので軟弱な地盤	第3種
	30mよりも深い沖積層（軟弱層）	
	液状化の可能性がある地盤	

地盤の状態_地盤種別(軟弱地盤割増)

地盤の状態_種別

地形の状態

基礎の状態

柱接合部仕様

項目の意味は以下の通り：
地盤の状態_地盤種別(軟弱地盤割増)

3. 建物概要フォームへの入力（用語解説）

地形の状態：当該建物が建っている地形を選択する。

基礎の状態：基礎の種類と状態を選択する。

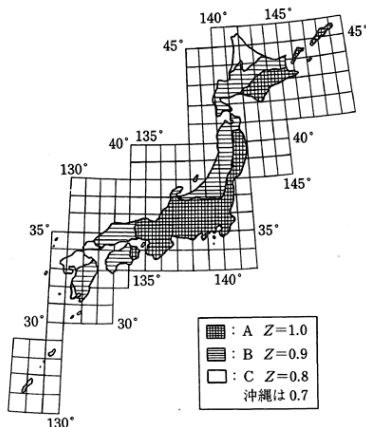
※ ひび割れの判断基準：一般には0.3mm程度

※ 軽微なひび割れのある無筋コンクリート基礎の定義：
床下換気口隅角部に0.3mm程度以下のひび割れが発生しているが、基礎全体は健全な状態

基礎形式：基礎の状態に応じて定められている仕様。

地域係数：「地域毎の地震による震害の程度」や「地震活動状況」等により、0.7～1.0の範囲内で定められた係数。

※ 静岡県は独自の指針により1.2とすることを求めている



地形の状態

地形の状態	平坦・普通(健全)
基礎の状態	がけ地・急斜面(コンクリート擁壁)
柱接合部仕様	がけ地・急斜面(石積)
	がけ地・急斜面(特別な対策を行っていない)

基礎の状態

基礎の状態	I：鉄筋コンクリート基礎(健全)
柱接合部仕様	II：鉄筋コンクリート基礎(ひび割れが生じている)
	II：無筋コンクリート基礎(健全)
	II：無筋コンクリート基礎(軽微なひび割れが生じている)
	III：無筋コンクリート基礎(ひび割れが生じている)
	II：玉石基礎(RC床盤設置し足固め等緊結)
	III：玉石基礎(足固めあり)
	III：玉石基礎(足固めなし)
	III：その他(ブロック基礎等)

基礎形式 (I, II, III) は、基礎の状態の選択により自動的に決まる

地域係数

地域係数 Z	0.7
地盤の状態・種別	0.8
地形の状態	0.9
	1.0
基礎の状態	1.1
	1.2

1.1, 1.2：設計者の判断で必要耐力を割り増すためのもの

3. 建物概要フォームへの入力（精密診断のみ）

流れ

I. 「ナビゲーションウィンドウ」で「精密診断法1(精算法)」または「精密診断法1(Ai法)」を選択

II. 「劣化程度の設定ダイアログ」で「壁部材の劣化程度」を選択

III. 追加で必要となる項目を設定

- 各水平構面の倍率設定
- 各部の検討

IV. 建物概要フォームに戻り「名前を付けて保存」または「上書き保存」

劣化程度	調査結果の例
①	- 腐朽・蟻害・虫害が認められない - ドライバーが部材表面を傷つける程度である
②	- 部分的に腐朽・蟻害・虫害が認められる - ドライバーが劣化が認められない場合に比べ多少小さい抵抗で刺さる
③	- 全断面に及ぶような腐朽・蟻害・虫害が認められる - ドライバーが簡単に深く刺さる

III	床仕様	4m以上の吹き抜けの有無
床構面の床倍率	各水平構面の倍率設定	
屋根構面の床倍率	※N50@150mm以下とする	
火打構面の床倍率	※N50@150mm以下とする	

注記事項	精密診断 各部の検討
地盤 地形 基礎 その他	

各部の検討を入力するフォームを開く

精密診断法における各部の検討	問題有り
概要フォームに戻る データの初期化	
地盤 基礎 水平構面の損傷 構架材接合部	
☐	敷地が傾斜地で、敷地内
☐	建物周囲に、1.5m以上の
☐	付近は液状化の可能性が
☐	田畑の造成地で、造成後5
☐	河川・湖沼・池・沼・田

3. 建物概要フォームへの入力（精密診断のみ）

流れ

I. 「ナビゲーションウィンドウ」で「精密診断法1(Ai法)」を選択

II. 建物概要の[Ai法_重量と高さの設定]をクリック

III. 「建物重量と高さの設定」ダイアログで以下の項目を設定：

- 各部の単位重量
- 各階階高
- 建物高さ

IV. 建物概要フォームに戻り「名前を付けて保存」または「上書き保存」

III 建物重量と高さの設定

概要フォームに戻る

単位床面積当たりの重量[kN/m²]

	屋根	外壁	内壁	床	積載荷重	階高[m]
2階	0	0	0	0	0	0
1階	0	0	0			0

建物高さ[m] 0

住宅の簡易重量表(単位床面積当たり kN/m²)

	屋根	外壁	内壁	床	積載	仕様の例
軽い建物	0.95	0.75	0.20	0.60	0.60	屋根：屋根スレート葺 外壁：ラスモルタル塗り 内壁：石膏ボード張り
重い建物	1.30	1.20	0.20	0.60	0.60	屋根：棟瓦葺 外壁：土塗壁 内壁：石膏ボード張り
非常に重い建物	2.40	1.20	0.45	0.60	0.60	屋根：土塗き瓦葺き 外壁：土塗壁 内壁：土塗壁

入力制限

単位重量：正の値

階高：2.0 m以上3.5 m以下

建物高さ：(平屋) 3.0 m以上9.0 m以下
(2階建) 3.0 m以上11.0 m以下

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

9

4. 現況診断用の劣化度入力（一般診断のみ）

流れ

I. 建物概要の[劣化度]の「現況診断用」をクリック

II. 劣化度入力フォームで劣化点数を入力する

※ 露出した躯体とは...
母屋、桁、柱や束基礎の場合の土台などで、仕上げがなく直接風雨に晒される木造部分

† 築10年未満の場合、一部の項目は設定不可

† 「現況診断用」と「補強診断用」の2つに対して入力が必要

† 「補強診断用」の入力方法は p. 27 参照

† 精密診断での劣化はCAD画面で壁毎に編集が可能

II 劣化度入力(現況)

デフォルトに戻す

例：築10年以上

部位	材料、部材等	劣化事象	存在点数 築10年以上	劣化 点数
屋根葺き材	金属板 瓦・スレート	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある 割れ、欠け、ずれ、欠落がある	☐ 2	☐ 2
壁	軒・呼び壁 堅壁	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある 変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	☐ 2 ☐ 2	☐ 2 ☐ 2
外壁仕上げ	木製板・合板 窯業系サイディング 金属サイディング モルタル	水浸み痕、こけ、割れ、抜け、ずれ、腐朽がある こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある 変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある	☐ 4	☐ 4
露出した躯体		水浸み痕、こけ、腐朽、蟻害、蟻害がある	☐ 2	☐ 2
バルコニー	手すり 壁 床排水	水浸み痕、こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある 変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある 外壁面との接合部に亀裂、隙間、蟻害、シール切れ・剥離がある 壁面を伝って流れている、または排水の仕組みがない	☐ 1 ☐ 1 ☐ 1	☐ 1 ☐ 1 ☐ 1
内装	一般室 浴室 洗面 廊下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある 目地の亀裂、タイルの割れがある 水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある 材料、過度の振動、床鳴りがある 材料、過度の振動、床鳴りがある 基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻害、蟻害がある	☐ 2 ☐ 2 ☐ 2 ☐ 1 ☐ 2	☐ 2 ☐ 2 ☐ 2 ☐ 1 ☐ 2
床	床面 床下		☐ 2 ☐ 2	☐ 2 ☐ 2
合 計			0	0
劣化度による低減係数 (D)			1 - (劣化点数 / 存在点数) = ※	
			保存して戻る	保存しないで戻る

IIの詳細

a. 建物に存在する部位の「存在点数」にチェックを入れる

b. 該当の劣化事象がある部位の「劣化点数」にチェックを入れる

c. 入力後、[保存して戻る]をクリック

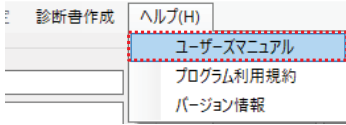
達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

10

5. マニュアル等の表示

流れ

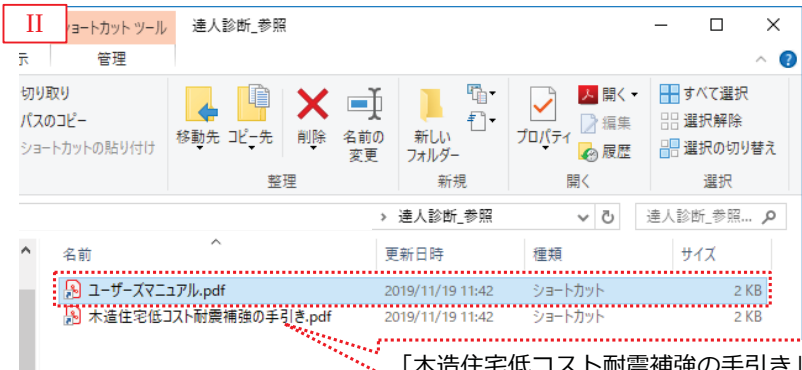
I. 建物概要の[ヘルプ(H)]の「ユーザーズマニュアル」をクリック



II. ショートカットを収めているフォルダーが現れるので「ユーザーズマニュアル.pdf」をクリック

III. マニュアルが表示される





「木造住宅低コスト耐震補強の手引き」(手引き図表携帯版)も参照可

ユーザーズマニュアル目次

1. 概要	p. 3
2. 建物概要フォーム (ファイル操作)	p. 18
3. 建物概要フォーム (データ入力)	p. 26
4. 建物データ (CAD) の入力	p. 34
5. 劣化度入力フォームへの入力	p. 77
6. 診断書の出力	p. 80
7. 補強設計モードへの移行	p. 86
8. 耐震改修設計のための資料付録	p. 91
	p. 96

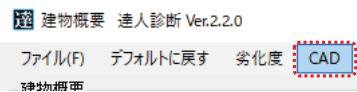
達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

11

6. CAD入力フォームについて

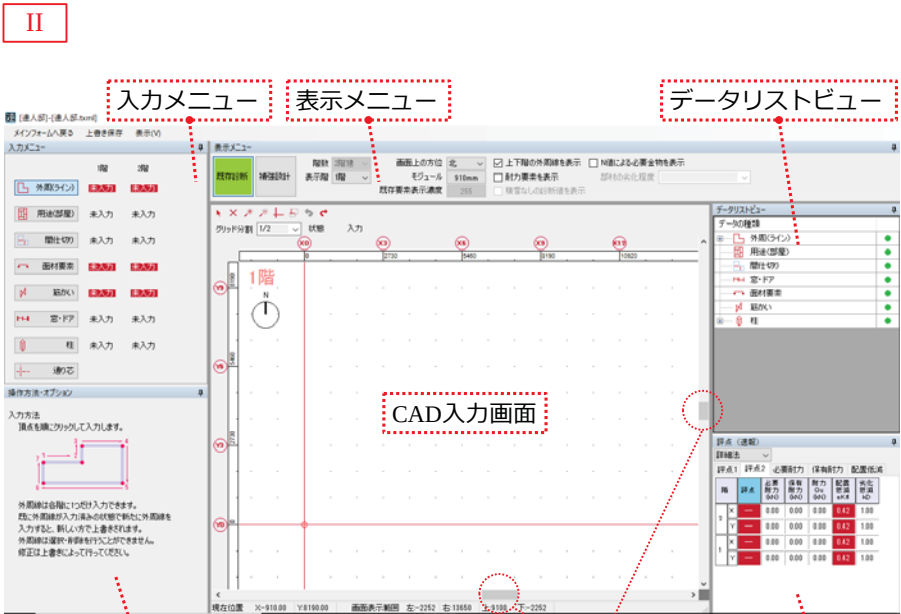
流れ

I. 建物概要の[CAD]をクリックしてCAD入力フォームへ移動



II. CAD入力フォームの構成：

- 表示メニュー**
CAD画面表示に関する設定
- 入力メニュー**
入力する建物要素を選択
- 操作方法・オプション**
建物要素の詳細設定，入力済み建物要素の状態変更
- CAD入力画面**
建物要素をここに入力
- データリストビュー**
入力済み建物要素のリスト
- 評点（速報）**
主要な診断値の表示



入力メニュー

表示メニュー

データリストビュー

CAD入力画面

操作方法・オプション

画面スクロール

評点（速報）

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

12

6. CAD入力フォームについて（続き）

表示メニュー
 表示メニュー
 既存診断 補強設計
 階数 2階建 表示階 1階
 画面上の方位 北
 モジュール 910mm
 既存要素表示濃度 255
 上下階の外周線を表示
 耐力要素を表示 番
 部材の劣化程度 劣化が認められない
 概算コスト集計 円

表示階切り替え
 階数 2階建 表示階 1階

モジュール変更
 モジュール 910mm

表示金物の切り替え
 部材の劣化程度 劣化が認められない

既存モード／補強モード切替
 既存診断 補強設計

耐力要素の耐力表示
 耐力要素を表示 番

概算コストの表示
 概算コスト集計 円

入力補助ツール
 グリッド分割 1/2 状態 入力
 要素を選択するためのボタン
 選択した要素を削除
 画面を少し拡大
 画面を少し縮小
 初期画面に戻す
 建物を全体表示する
 直前の操作を取り消す
 取り消した操作をやり直す
 1/2 モジュールの分割数を選択
 状態 入力 CAD画面の状態を表示

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

13

7. 外周（ライン）の入力

流れ

I. 入力メニューの「外周（ライン）」をクリック

II. CAD画面上に外周線を入力（一筆書きの要領）

※入力補助ツールの「全体表示」で建物全体が丁度収まるサイズに変更

外周線ができ、隅部には柱が自動生成される

使用している金物記号を表示

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

14

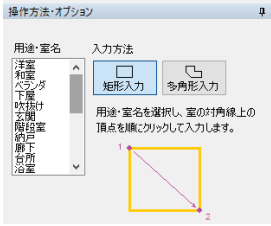
8. 用途（部屋）の入力

流れ

I. 入力メニューの「用途（部屋）」をクリック



II. 用途・室名と入力方法をリストから選択



III. CAD画面上に部屋を入力

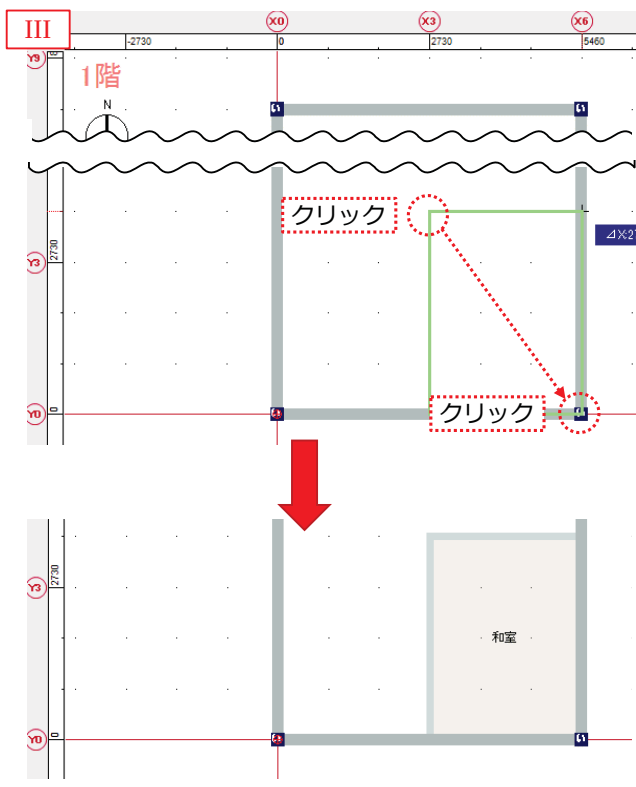
III

1階

（例）矩形入力

クリック

クリック



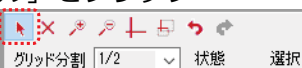
達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

15

8. 用途（部屋）の入力：室名の変更

流れ

I. 入力補助ツールの「選択ツール」をクリック



II. 名称を変更したい部屋をクリックして選択

III. 操作方法・オプションの「室名」テキストボックスを編集して[Enter]キーを押す

† Windowsの「拡大鏡」を使うと画面の一部を拡大可能（詳細は、Google等の検索エンジンを用い、『windows 拡大鏡』で検索）



II, III

方法・オプション

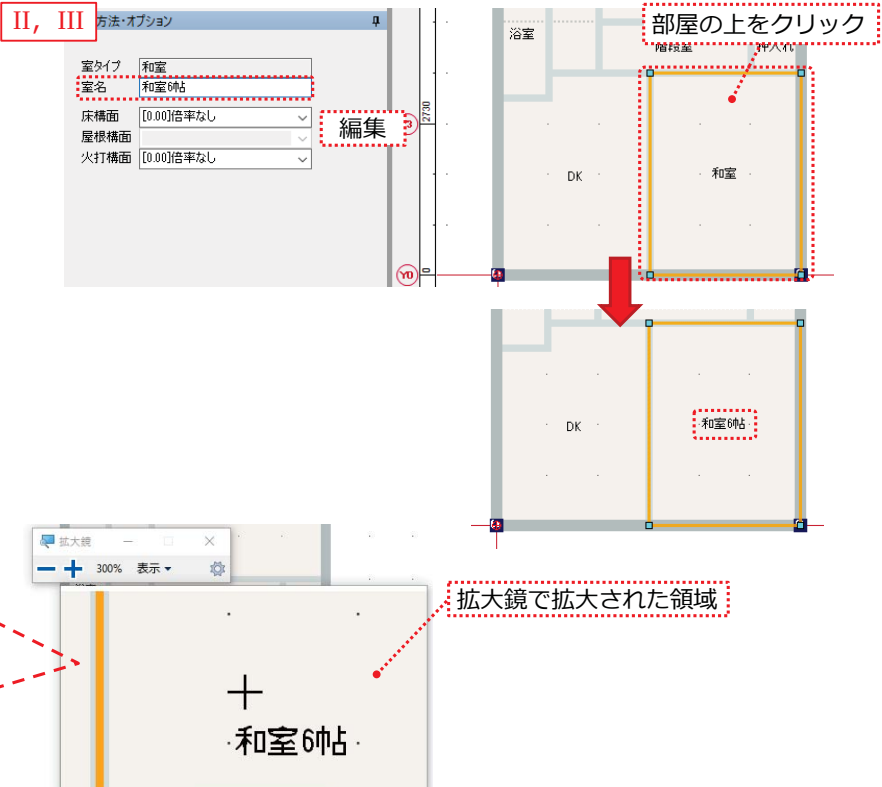
室タイプ 和室

室名 和室0帖

編集

部屋の上をクリック

拡大鏡で拡大された領域



達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

16

9. 面材要素の入力（面材張り壁）

流れ

I. 入力メニューの「面材要素」をクリック

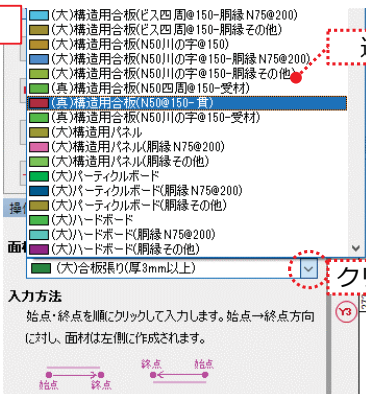


II. 「操作方法・オプション」で面材張り壁の種類を選択

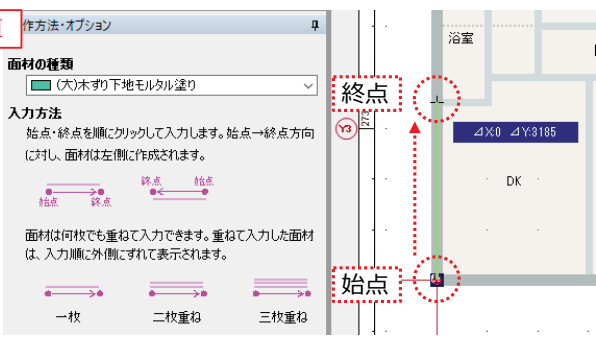
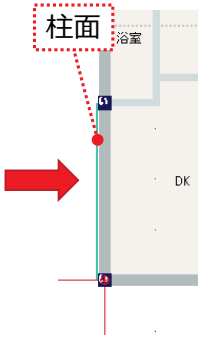
III. CAD画面上に面材壁を入力（始点，終点の2点クリック）

※ 入力方向でCAD表現が変化

II



III

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

17

9. 面材要素の入力（土塗壁）

流れ

I. 入力メニューの「面材要素」をクリック

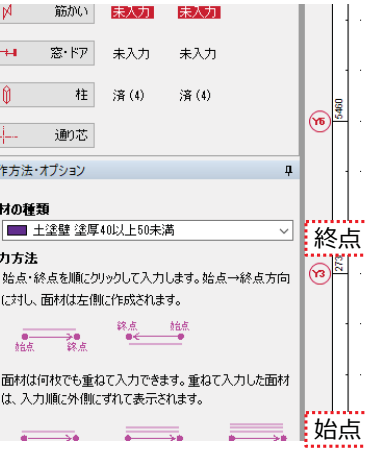
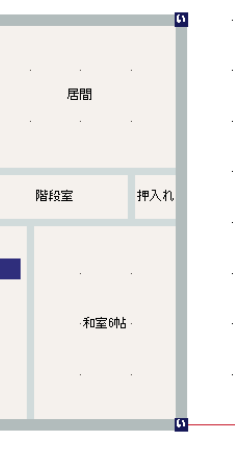


II. 「操作方法・オプション」で土塗壁の種類を選択

III. CAD画面上に土壁を入力（始点，終点の2点クリック）

※ 入力方法によるCAD表現の変化なし

III

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

18

10. 筋かいの入力

流れ

I. 入力メニューの「筋かい」をクリック



II. 「操作方法・オプション」で種類と形状を選択

III. CAD画面上に筋かいを入力(始点、終点の2点クリック)

※ 面材と同様、**入力方向でCAD表示が変化**

II 操作方法・オプション

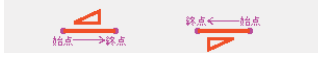
筋かいの種類: **クリック**

- 鉄筋筋かい(鉄筋9φ以上)
- 15×90筋かい(びんた伸ばし)
- 30×90筋かい(BPまたは同等品)
- 30×90筋かい(くぎ打ち)
- 45×90筋かい(BP-2または同等品)
- 45×90筋かい(くぎ打ち)
- 90×90筋かい(ボルトM12)
- 90×90筋かい(くぎ打ち)

筋かいの形状: **選択**

右上がり 左上がり たすき掛け

入力方法: 始点、終点を順にクリックして入力します。

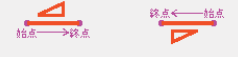


III 操作方法・オプション

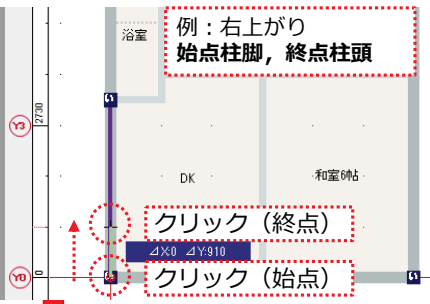
筋かいの種類: 30×90筋かい(くぎ打ち)

筋かいの形状: 右上がり 左上がり たすき掛け

入力方法: 始点、終点を順にクリックして入力します。



例: 右上がり
始点柱脚, 終点柱頭



クリック(終点)

クリック(始点)

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

19

11. 窓・ドアの入力

流れ

I. 入力メニューの「窓・ドア」をクリック



II. 「操作方法・オプション」で種類・形状を選択

※ ドアの場合は開き勝手も選択

III. CAD画面上に開口部を入力(始点、終点の2点クリック)

II 操作方法・オプション

窓・ドアの種類: **クリック**

- 窓型開口
- 掃き出し開口
- ドア
- 全開口

ドアの開き勝手: 右吊元 左吊元

入力方法: 種類を選択し、始点・終点を順にクリックして入力します。

例: 掃き出し開口



III 操作方法・オプション

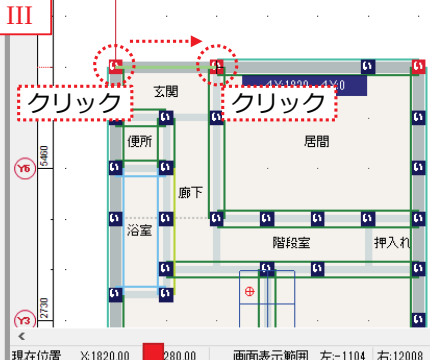
窓・ドアの種類: 窓型開口

ドアの開き勝手: 右吊元 左吊元

入力方法: 種類を選択し、始点・終点を順にクリックして入力します。



例: 掃き出し開口



クリック

クリック

(精密診断のみに影響) 面材要素を入力した箇所に開口部を重ねて入力すると、腰壁・垂れ壁の仕様が自動的に設定される

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

20

11. 窓・ドアの入力（垂壁・腰壁の仕様編集）

流れ

- I. 入力補助ツールの「選択ツール」をクリック
- II. 壁仕様を変更したい開口部をクリック
- III. 「操作方法・オプション」の「壁構成」タブで、垂壁・腰壁の仕様を編集

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

21

12. 壁の劣化程度の変更（精密診断のみ）

流れ

- I. 選択ツールをクリックし、耐力要素（面材・筋かい・開口部）をクリックして選択
- II. 操作方法・オプションで劣化の程度を変更

劣化の程度	調査結果の例
劣化が認められない	- 腐朽・蟻害・虫害が認められない - ドライバーが部材表面を傷つける程度である
部材に部分的な劣化が認められる	- 部分的に腐朽・蟻害・虫害が認められる - ドライバーが劣化が認められない場合に比べ多少小さい抵抗で刺さる
部材に著しい劣化が認められる	- 全断面に及ぶような腐朽・蟻害・虫害が認められる - ドライバーが簡単に深く刺さる

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

22

13. 柱の入力

流れ

I. 入力メニューの「柱」をクリック



II. CAD画面上をクリックして柱を入力

III. 管柱から通し柱への変更：柱を選択して操作方法・オプションで「通し」を選択

† 接合部IIIとIVは通し柱の設定により自動判別

III

選択ツールをクリック

選択

クリック

概要タブ

管柱/通し柱を切り替え

接合部金物の変更（後述）

方向ごとの接合部仕様

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

23

14. 耐力要素を表示

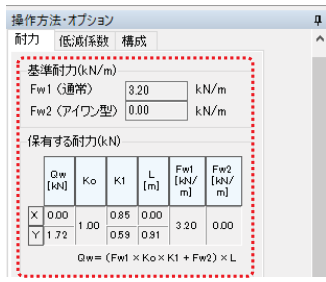
流れ

I. CAD入力フォームの表示メニューの「耐力要素を表示」にチェックを入れる



II. 耐力要素が強調され、各要素の耐力が表示される

III. 要素をクリックすると「操作方法・オプション」に耐力の計算過程などが表示される



操作方法・オプション

耐力 低減係数 構成

基準耐力(kN/m)

Fw1 (通常) 3.20 kN/m

Fw2 (アイワン型) 0.00 kN/m

保有する耐力(kN)

	Qw [kN]	Ko	K1	L [m]	Fw1 [kN/m]	Fw2 [kN/m]
X	0.00	1.00	0.85	0.00	3.20	0.00
Y	1.72	1.00	0.59	0.91	3.20	0.00

$Q_w = (Fw1 \times Ko \times K1 + Fw2) \times L$

II

1階 耐力要素表示モード

※一般要素は選択できません。

III クリック

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

24

15. 過去に保存した建物ファイルを開く場合

流れ

I. 「メインフォームへ戻る」で建物概要フォームに戻る

II. ファイルメニューの「作業フォルダーの変更」で、作業フォルダーを過去に保存した建物ファイルが入っているフォルダーに変更する

III. ファイルメニューの「開く」で建物ファイルを開く

II. 建物概要 達人診断 Ver.2.2.0

ファイル(F) デフォルトに戻す 劣化度

新規作成
開く(O)
上書き保存
名前を付けて保存
閉じる(C)
作業フォルダーの変更

↓

フォルダーの参照

作業フォルダーを指定してください。

コントロール パネル
ごみ箱
...
達人診断建物データ
 達人診断課題
 達人部

別のフォルダーを作業フォルダーに指定

新しいフォルダーの作成(N) OK キャンセル

達人診断 超簡単入カマニュアル第5版

25

16. 診断書の出力（製品版のみ）

流れ

I. 建物概要フォームに戻り入カメニューの診断書作成をクリック

II. 「診断書出力ダイアログ」で出力する診断書にチェックを入れて出力をクリック

III. 「印刷ダイアログ」で以下の仮想プリンターを選択

- Microsoft Print to PDF
※Windows10のみに搭載
- Microsoft XPS Document Writer

IV. 作業フォルダー内に「診断書」フォルダーが作成され、診断書は其中に作成される

II. 診断書出力

建物概要に戻る 出力

出力リスト

☐ 一般診断法、標準法、現況診断
☐ 一般診断法、詳細法、現況診断
☐ プレゼンシート

注記
・プリンターはPDF出力をお
・Windows10にて標準の仮
Print to PDF" および "M
Writer" を選択すると、自動
します。

チェック（複数選択可）

III. 印刷

プリンター

プリンター名(N): Microsoft Print to PDF プロパティ(P)...

状態: 準備完了
種類: Microsoft Print To PDF
場所: PORTPROMPT:
コメント: ☐ ファイルへ出力(I)

印刷範囲

☒ すべて(A)
☐ ページ指定(G) ページから(F) ページまで(T)
☐ 選択した部分(S)

印刷部数

部数(C): 1
☐ 部単位で印刷(O)
1 2 3

OK キャンセル

IV. 建物データ > 達人部 >

名前 更新日時 種類

「診断書」フォルダー

診断書 2019/11/19 18:32 ファイル フォルダー

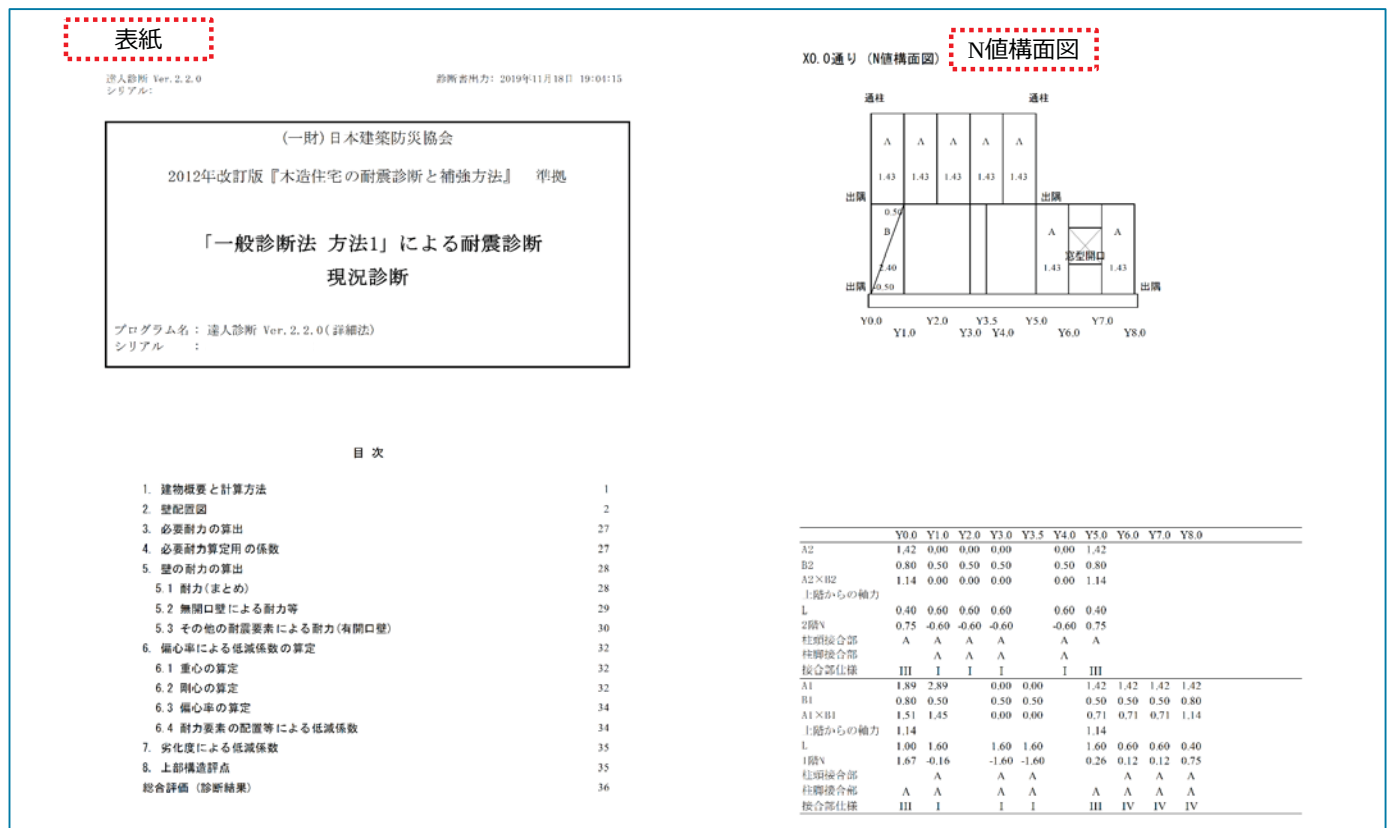
達人Backup.xml 2019/11/19 18:13 TXML ファイル

作業フォルダー

達人診断 超簡単入カマニュアル第5版

26

16. 診断書の出力：出力結果例



達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

27

17. 補強診断用の劣化度入力（一般診断のみ）

流れ

I. 建物概要フォームへ戻り、劣化度メニューの「補強診断用」をクリック

II. 「現況診断のコピー」をクリックし、存在点数と劣化点数をコピーする

III. 補強により取り除ける劣化事象に対しては、劣化点数のチェックを外して「保存して戻る」をクリック

II 劣化度入力(補強)

補強により取り除ける劣化事象のチェックは外すこと

部位	材料、部材等	劣化事象	存在点数 築10年以上	劣化 点数	
屋根葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	☒ 2	☐ 2	
	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある	☒ 2	☐ 2	
樋	軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	☒ 2	☐ 2	
	縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	☒ 2	☐ 2	
外壁仕上げ	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け、ずれ、腐朽がある	☒ 4	☐ 4	
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある	☒ 4	☐ 4	
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	☒ 4	☐ 4	
	モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある	☒ 4	☐ 4	
露出した躯体		水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	☐ 2	☐ 2	
バルコニー	手すり壁	木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある	☒ 1	☐ 1
		窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある	☒ 1	☐ 1
		金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある	☒ 1	☐ 1
床排水		外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ、剥離がある	☐ 1	☐ 1	
		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みがない	☐ 1	☐ 1	
内壁	一般室	内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある	☒ 2	☐ 2
		タイル壁	目地の亀裂、タイルの割れがある	☒ 2	☒ 2
	浴室	タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある	☒ 2	☒ 2
		一般室	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	☒ 2	☒ 2
床	床面	廊下	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	☒ 1	☐ 1
		床下	基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	☒ 2	☐ 2
合 計			21	4	
劣化度による低減係数 (D)			1 - (劣化点数 / 存在点数) = 0.81 ※		
現況診断での劣化低減係数が0.90未満の場合、補強設計での劣化低減係数の上限は0.90			保存して戻る	保存しないで戻る	

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

28

20. 耐力要素の仕様変更

流れ

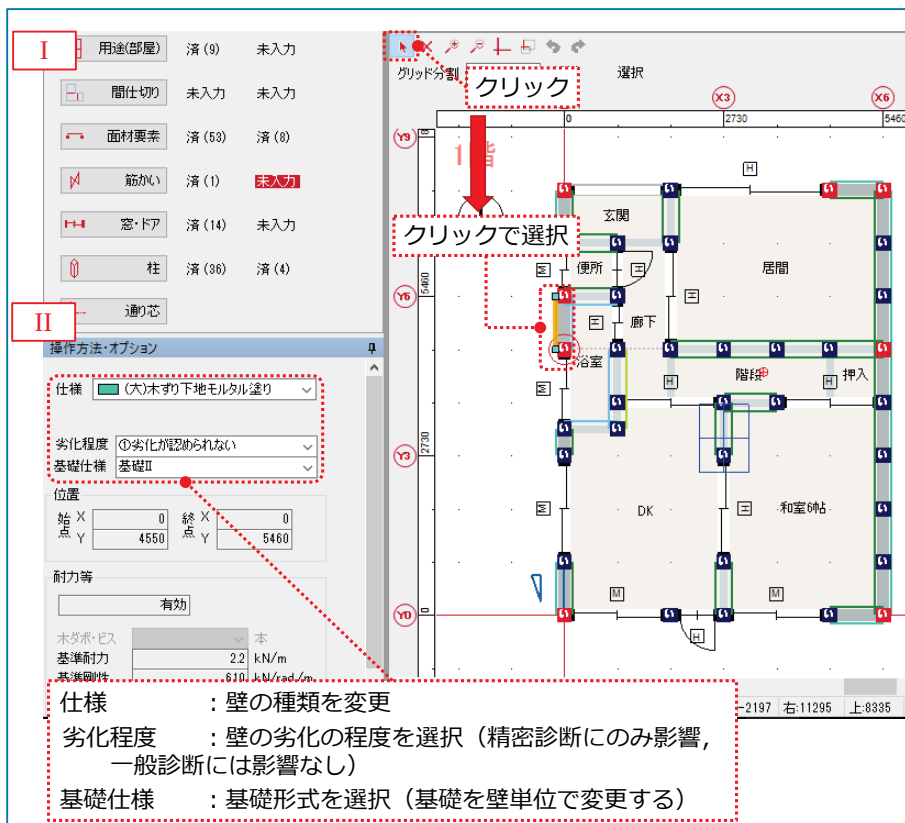
- I. 仕様変更する耐力要素を選択
- II. 「操作方法・オプション」で仕様等を変更

土壁と筋かいが重なっていて、土壁を選択できない場合の対処法

1. 「データリストビュー」の「筋かい」
右にある緑のボタンを左クリック
(ボタンを赤色にする)
2. 筋かいが**非表示**になるので、その状態
で十壁をクリック

データリストビュー		
データの種類		
	外周(ライン)	
	用途(部屋)	
	間仕切り	
	窓・ドア	
	面材要素	
	筋が(い)	
	柱	

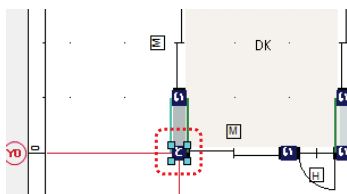
3. 土壁の編集が終わったら、ボタンをもう一度左クリックして表示を元に戻す



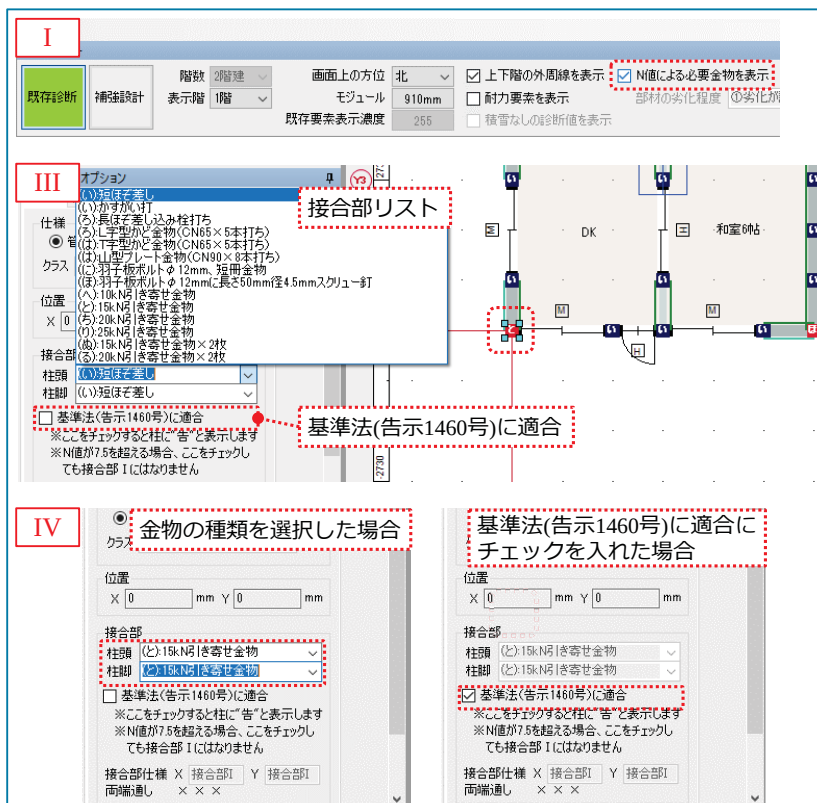
21. 柱接合部の補強：個別選択

流れ

- I. 表示メニューの「N値による必要金物を表示」にチェックを入れ、必要金物を確認する
- II. 接合部仕様を変更する柱を選択
- III. 操作方法・オプションの「概要タブ」でいずれかを行う
 - a. 接合部リストから金物の種類を選択
 - b. 「基準法(告示1460号)に適合」にチェック
- IV. 柱接合部仕様が変化すると、柱の色が変化する



※ 壁両端の柱の接合部仕様が“I”になると、低減係数が大きくなり壁の耐力が上昇



21. 柱接合部の補強：一括選択

流れ

- I. データリストビューの「柱」のボタンを右クリック：柱以外を非表示にする

データリストビュー	
データの種類	
④ 外周(ライン)	●
④ 用途(部屋)	●
④ 間仕切り	●
④ 窓・ドア	●
④ 面材要素	●
④ 筋かい	●
④ 柱	●

右クリックで青くする

- II. 補強する柱をドラッグ選択または[Shift]キーを押しながら選択
- III. 操作方法・オプションの「概要タブ」でいずれかを行う：
 - a. 接合部リストから金物の種類を選択
 - b. 「基準法(告示1460号)に適合」にチェック

柱以外非表示（柱のみ表示）の状態

ドラッグ選択

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

33

22. 耐力要素のユーザー定義

流れ

- I. CAD入力フォームのメニュー「表示」の「面材・筋かいリスト編集」をクリック

- II. 「壁仕様リストの編集ダイアログ」で「新規作成」をクリック
- III. 「新規作成ダイアログ」にデータを入力してOKをクリック
- IV. 「壁仕様リストの編集ダイアログ」に作成した壁が追加される

開口部の補強方法

開口部（垂壁・腰壁）の補強は以下のように行う：

面材要素または筋かいを既存開口部に重ねて入力する

※ 既存開口部の耐力・剛性は0として扱われる

作成する耐力要素の種類を選択

例：面材要素

データ入力

※手引き算出法

ユーザー定義壁
↑ 記号先頭に“U”が付く

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

34

23. 特殊な補強要素の入力 その1：アイワン

流れ

- I. 入力メニューの「筋かい」をクリック
- II. 「操作方法・オプション」のリストでアイワンを選択

アイワン：補強専用の耐力要素

- III. CAD画面上にアイワンを入力

アイワン型：
接合部仕様が“接合部I”
として扱われる要素

アイワンを選択して入力

※ 補強設計モードでは、耐力要素（面材要素・筋かいとともに）を開口部に重ねて入力できる

※ アイワンの耐力・剛性はスパンにより自動的に変化

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

35

23. 特殊な補強要素の入力 その2：ログ耐力壁b

流れ

ログ耐力壁（タイプb）の入力例

- I. “芯ずれ通り芯”を新たに入力：
 - a. 入力メニューの「通り芯」をクリック
 - b. 操作方法・オプションで方向を選択
 - c. CAD画面をクリック
- II. 選択ツールをクリックし、通り芯をクリックして選択
- III. 操作方法・オプションで座標を入力して[Enter]キーを押す

既存の芯から 200 mm 内側の位置を入力
例) $1820 + 200 = 2020$

(次ページに続く)

マウスカーソルを通り芯の上に乗せ、色が変わったらクリック

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

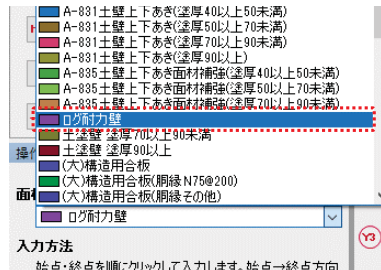
36

23. 特殊な補強要素の入力 その2（続き）

流れ

ログ耐力壁（タイプb）の入力例

IV. 入力メニューの面材要素をクリックし、操作方法・オプションでログ耐力壁を選択



V. 追加した通り芯上にログ耐力壁を入力



追加した通り芯

通り芯上にログ耐力壁を入力

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

37

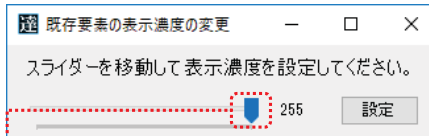
24. 補強要素の強調表示

流れ

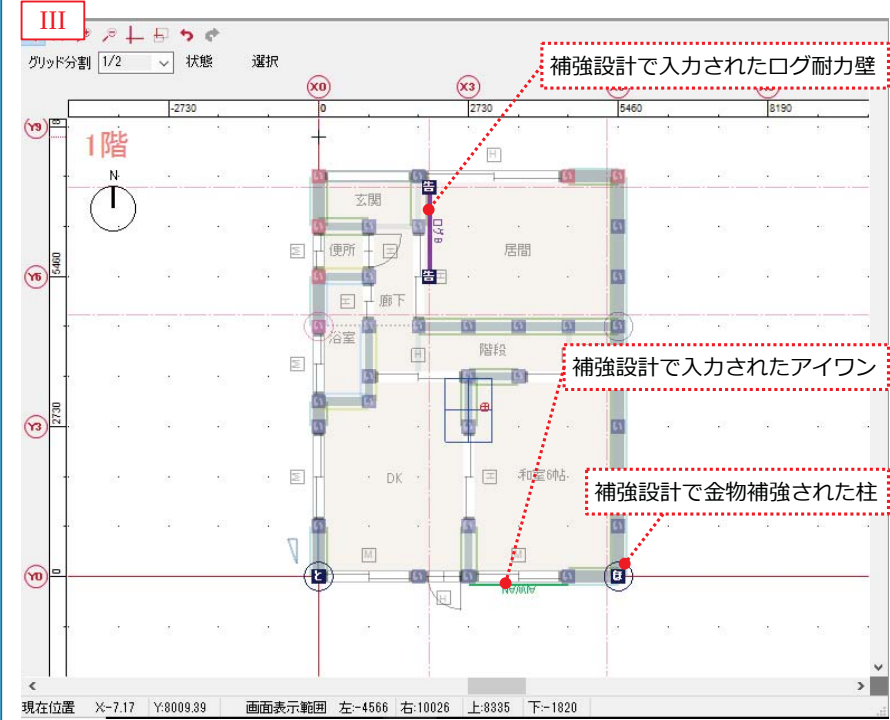
I. 補強設計モードにおいて、表示メニューの「既存要素表示濃度」をクリック



II. 表示されるダイアログのスライダーをドラッグして移動し、表示濃度を変更



III. 既存要素の色が薄くなり、補強設計要素が強調表示される



補強設計で入力されたログ耐力壁

補強設計で入力されたアイワン

補強設計で金物補強された柱

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

38

25. 概算コストの表示

流れ

補強設計モードへ移り，単価が設定されている耐力要素を入力
→表示メニューの「概算コスト集計」に結果が反映される

☐ N値による必要金物を表示
部材の劣化程度 ①劣化が認められない
概算コスト集計 2,063,257 円

表示メニュー

階数 1階 表示階 1階 画面上的方位 北 上下階の外周線を表示 ☐ N値による必要金物を表示 ☐ 耐力要素を表示 ☐ 書 概算コスト集計 2,063,257 円

概算コスト集計

データリストビュー

データの種類の

① 外周(ライン) ② 用途(部屋) ③ 間仕切り ④ 窓・ドア ⑤ 面材要素 ⑥ 床がい ⑦ 柱

評価 (速報)

評価法

階	評点1	評点2	必要耐力	耐力余力	耐力余力率	耐力余力率
1	1.04	1.00	1.00	0.99		
2	1.06	1.00	1.00	0.99		
3	1.05	1.00	1.00	0.99		
4	1.03	1.00	1.00	0.99		

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

39

26. プレゼンシートの作成（製品版のみ）

流れ

I. 建物概要フォームの診断書作成メニューをクリック
II. 診断書出力ダイアログの「プレゼンシート」にチェックを入れて出力

診断書出力

建物概要に戻る 出力

出力リスト

☐ 一般診断法_標準法_現況診断
☐ 一般診断法_標準法_補強設計
☐ 一般診断法_詳細法_現況診断
☐ 一般診断法_詳細法_補強設計
☒ プレゼンシート
☐ 補強工法リスト&概算コスト

注記

・プリ・Win Print Write します

プレゼンシート：補強前後での主要診断値の違いを比較する資料

補強計画書(案)

図面

「耐震診断」(左)：既存診断時の平面図

「補強設計」(右)：補強設計時の平面図

診断結果

耐震診断(簡易法)				耐震診断(詳細法)				補強設計(詳細法)			
階	評点1	評点2	耐力余力率	階	評点1	評点2	耐力余力率	階	評点1	評点2	耐力余力率
1	1.04	1.00	0.99	1	1.04	1.00	0.99	1	1.04	1.00	0.99
2	1.06	1.00	0.99	2	1.06	1.00	0.99	2	1.06	1.00	0.99
3	1.05	1.00	0.99	3	1.05	1.00	0.99	3	1.05	1.00	0.99
4	1.03	1.00	0.99	4	1.03	1.00	0.99	4	1.03	1.00	0.99

左：既存診断(標準法)での主要診断値

中：既存診断(詳細法)での主要診断値

右：補強設計(詳細法)での主要診断値

達人診断 超簡単入力マニュアル第5版

40

27. 概算コスト資料の作成（製品版のみ）

流れ

I. 建物概要フォームの診断書作成メニューをクリック

II. 診断書出力ダイアログの「補強工法リスト&概算コスト」にチェックを入れて出力

診断書出力

建物概要に戻る 出力

出力リスト

- ☐ 一般診断法_標準法_現況診断
- ☐ 一般診断法_標準法_補強設計
- ☐ 一般診断法_詳細法_現況診断
- ☐ 一般診断法_詳細法_補強設計
- ☐ プレゼンシート
- ☒ **補強工法リスト&概算コスト**

注記

・Print・Write・しな

補強工法リスト&概算コスト：補強設計にかかるコスト概算を示す資料

補強工法リスト&概算コスト

建物名称：達人邸
診断依頼者：達人太郎・花子様

【補強工法リスト】

補強工法	工事単価 [円/kN]	必要耐力 [kN/m]	取長さ [m]	箇所数	小計 [円]				
A-435真壁上下あき(アルミ材下地)	¥18,002	×	4.160	×	0.910	×	4	=	¥272,592
A-812土壁1隅欠け(壁厚50以上70未満)		×	2,340	×	0.910	×	3	=	
A-813土壁2隅欠け(壁厚50以上70未満)		×	1,680	×	0.910	×	1	=	
ロフト耐力壁	¥29,618	×	7,580	×	1.620	×	1	=	¥363,697
30X90筋かい(HPまたは同等品)		×	2,400	×	0.910	×	1	=	
アイワン 偏心小芯ずれ1/2以下	¥25,859	×	4,090	×	1.820	×	2	=	¥385,920
集計									¥1,022,209

† 金物補強は小額であるためここには含まれていない

† コストはあくまでも「補強工事費の目安」であり、この一覧表を参考に正式見積りを行うこと

† 工事単価は「減災協手引き」内の値